

平成 27 年度 事 業 報 告 書
平成 27 年度 計 算 書 類 等

自 平成 27 年 4 月 1 日
至 平成 28 年 3 月 31 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会

目 次

概 況	1
-----	---

事業報告書

A 研究事業	
I 共同研究事業	4
II 個別研究事業	7
III 各種研究会	10
1 早期胃癌研究会	
2 大腸研究会	
IV 研究成果の発表	17
1 論文・著書	
2 学会活動	
3 研究会・研修会における講演	
4 共同研究	
B 研修事業	25
I 実技研修の受入れ	
II 平成消化器懇話会の開催	
III 外国人医師に対する研修	
C クリニック運営事業	28
D 啓発事業	42
E 法人運営	43

計算書類等

A 貸借対照表	47
B 正味財産増減計算書	48
C 財務諸表に対する注記	50
D 財産目録	52

概 況

我が国は厳しい経済状況が長く続いていたが、政府が実施する大胆な金融政策や民間投資を喚起する成長戦略等の経済政策により、日本経済は緩やかに回復しつつあるものの明るい兆しが見えなく、経済界が活況を取り戻すまでにはもう少し時間を要する状況である。

一方、検診業界は、検診仲介事業者の参入等により、コストダウンとクオリティの向上という両極にあるニーズに応えることが求められるという大変厳しい経営環境におかれている。また、大腸がんや肺がんの増加などの疾病構造の変化や ABC 検診をベースとした胃がんのリスク検診への移行などの変化がみられ、検診のあり方が問われている。

平成 27 年度は、減少傾向にある受診者の確保に努めるとともに、新たな社会ニーズに対応するため、当協会独自の検診方法を確立し、実施するための準備に取り組んできた。平成 28 年度は、これまで検討を重ねてきた「総合的ながんリスク検診」を核とした新たな検診体制を構築するとともに、検査需要が高まっている内視鏡検査を拡充することにより、協会の安定的な運営を確保していかなければならない。

当協会が平成 27 年度に実施した事業は、以下のとおりである。

研究事業については、共同研究・個別研究ともに一定の成果を上げることができたので、引き続き、積極的に研究事業に取り組んでいく。

研修事業については、上海市で日中早期胃大腸腫瘍学術検討会を開催し、中国各地から多くの参加者があった。また、医師 1 名を受け入れ、内視鏡研修を行った。さらに、地域の開業医等を対象とした平成消化器懇話会を 3 回開催した。

クリニック運営事業については、検診のうち施設内検診（当協会施設で実施する検診）は前年度よりわずかに増加したが、巡回検診は前年度の 4/5 程度に減少し、全体として検診規模は縮小となった。一方、外来診療の患者数は前年度より増加した。

啓発事業については、保健指導者セミナーを開催し、多くの方々の参加を得た。また、医療に関するタイムリーな話題を取り上げたニュースレターを 2 ヶ月に 1 回の割合で計 6 回発行した。

今後とも当協会は、基盤事業であるクリニック運営事業（検診・診療）の規模の維持・拡大に努めるとともに、研究事業、研修事業及び啓発事業を積極的に展開し、もって都民のがん対策及び健康増進に貢献する。

平成 27 年度 事業報告書

A 研究事業

当協会は、検診・診療を通じ、早期胃がんを主として大腸や食道の早期がんをも含めた消化器系のがんの学術的かつ診断技術的な研究を行っている。

研究事業には、研究本部の研究室メンバーが共同して行う共同研究事業、協会職員が個別に研究テーマを設定して研究を行う個別研究事業及び学術研究会を開催し支援する事業がある。

I 共同研究事業

共同研究事業は、研究本部に所属する研究室がその中長期目標を達成するために行う研究事業である。平成 27 年度の研究テーマは、平成 26 年からの継続のものが 4 テーマ、新規のものが 1 テーマである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

<研究テーマ>

1) より効果的な食道・胃・大腸・肺がんリスク検診に関する研究（継続）

（研究本部検診システム研究室）

日本人の疾病構造の変化に合わせた新しい視点からの「食道・胃・大腸・肺がんリスク検診」を検討し、検診を請け負っている企業などに提案するのが本研究の目的である。

平成 24、25 年度は、論文などを参考にして、当協会独自の「がんリスク検診」を提案した。平成 26 年度は胃に関してはピロリ感染の有無のみでリスクを評価し、ピロリ陽性者には保険診療で除菌治療を行う独自の胃がんリスク検診を作った。さらに、肺がんに関しては喫煙指数と禁煙期間から、食道がんは飲酒と喫煙指数から高リスク者を 10%程度に絞り込む試案を作った。

平成 27 年度は、複合リスク検診の試行について企業担当者との相談を行ったが実現できず、胃がんリスク検診を始めた企業一社と協力して、検診後の除菌治療のために当協会にピロリ外来を開設し、臨床データの蓄積に取り組んだ。

2) 効果的な特定保健指導に関する研究（内臓脂肪面積データの解析）（継続）

（研究本部保健指導研究室）

健康保険法改正に伴い平成 20 年から開始された特定健診におけるメタボリック症候群該当者に対する特定保健指導の有効性を高める方策について研究する。

平成 25 年度は 360 名について内臓脂肪面積測定機で内臓脂肪面積を測定した。内臓脂肪の中央値は 84.65 cm²で、100 cm²以上の人は 28%で、内臓脂肪面積と BMI は中等度の相関、腹囲とは強い相関があった。

平成 26 年度は、132 例で検討した結果、100 cm²以上では 76%がメタボ判定であった。

平成 27 年度は、内臓脂肪面積を測定した特定保健指導対象者 24 名の保健指導前後の内臓脂肪面積と体重、腹囲、血圧の変化との相関をみとめた。

3) 腸上皮化生の進行に伴う早期胃がんの臨床病理所見と内視鏡像の変化（継続）
（研究本部臨床病理研究室）

胃がんの病理組織学的研究として、平成 25 年度は、腸上皮化生の乏しい粘膜中に発生したがんの深達度と粘液形質の関係について解析を行った結果、胃型の粘液形質をもつ病変は早期に浸潤し易いことが判明し、第 10 回国際胃癌学会で口演発表した。

平成 26 年度は、中等度の腸上皮化生粘膜を背景とする早期胃がん 53 症例の病態を検討した。結果として、分化型がんが 78%、粘膜がんが 85%、平均径 1.4cm であった。また、胃上部領域の病変は、他部位に比べて粘膜下層がんの頻度が高かった。

平成 27 年度は、本研究結果を英文論文にして、終了となった。

4) 検診胃 X 線検査 造影剤少量化の検討（継続）
（研究本部画像研究室）

日本消化器がん検診学会新・胃 X 線撮影法ガイドライン改訂版（2011 年）によると、検診胃 X 線検査で使用する造影剤は、濃度 180~220w/v% の高濃度低粘性粉末バリウム 120~150ml を使用するとあるが、使用量の上限と下限には 30ml の幅がある。

平成 24 年度はバリウム量 120ml と 150ml について検討して 150ml を、平成 25 年度はバリウム量 130ml と 140ml について検討して 140ml を使用したほうが横胃、鉤状胃、下垂胃のいずれも良好な画像が得られた。

平成 27 年度は、150~120ml の間の造影剤量でどこまで減量可能か胃型別に検討する目的で、120ml と 150ml の造影効果の比較した結果、鉤状胃・下垂胃では、胃体部及び幽門部では造影効果に差がなかったが、胃上部、特に大彎から前壁では造影効果に差があった。横胃においては、体部では差がなかったが胃上部と幽門部で造影効果に差がでた。

5) *H.pylori* (HP) 除菌後胃における癌検出困難因子の検討（新規）
（研究本部がん対策情報室）

ピロリ感染胃炎に対する除菌の普及の結果、除菌後の胃がんに遭遇する機会が増加している。除菌後の胃がんは発見が困難と一般的にいわれているが、診断困難となる因子は明らかでない。また、従来のピロリ感染胃に対する内視鏡検査との相違点も明らかでない。そこで、除菌後胃の内視鏡検査の注意点、特に観察時の注目点を検討することが本研究の目的である。

内視鏡検査履歴があった除菌後胃がん症例 28 病変を対象に、胃がん診断時とそれ以前の内視鏡所見を比較検討した。過去の内視鏡検査で病変指摘を困難にしていた因子として、① 病変の領域性が乏しく周囲粘膜の胃炎による凹凸、

斑状発赤や地図状発赤と類似した病変（71%）、② 除菌前は胃炎に起因する付着粘液によって認識困難であった病変（18%）、③ 1年間隔の内視鏡検査を行っても、早期発見のできなかつた急速進展例（11%）が明らかになった。そこで、平成27年10月10日、JDDW2015 消化器病学会・消化器内視鏡学会合同シンポジウム5において、「*H.pylori* 除菌後の課題とその克服をめざして」と題して、「除菌後発見胃がんは領域性が乏しく周囲粘膜と類似した胃がんが多いが、一部の急速進展例を除き、発赤、凹凸、辺縁隆起所見に注意をしながら1年間隔で内視鏡を施行することで早期発見できる」ということを発表した。

II 個別研究事業

個別研究事業は、前年度から継続して研究するものが2テーマ、平成27年度から新たに研究を開始したものが3テーマ、合計で5テーマあり、それぞれの研究内容は次のとおりである。

なお、それぞれの研究テーマについて、外部の有識者を含めた「研究事業評価委員会」において、テーマ設定、成果等の評価を行っている。

<研究テーマ>

1) 内視鏡的正常胃粘膜症例の病態に関する内視鏡的研究（継続）

（榎 信廣）

この研究は、胃がんリスク検診（ABC 検診）の実施に当たっての問題点を検証することが目的である。

平成25年度の検討では、当協会の内視鏡検査受診者のうち、男性の40.5%が、女性の50.6%が内視鏡的A群（正常胃例）であった。内視鏡的A群211例について食道の腺がんの発生母地として注目されているバレット食道（食道粘膜の円柱上皮化生）の頻度を検討したところ、バレット食道と診断されたのは28.6%であった。平成26年度検討では、内視鏡的A群でのバレット食道の頻度は34.3%で、ピロリ胃炎患者より有意に高率であった。

平成27年度の5年以上の後向き経過観察症例での検討では、49歳以下であっても男性59%、女性53%と内視鏡的A群の半数以上にバレット食道が認められ、その進展も比較的若い年代で進行することが確認された。

平成24～27年度までの検討で内視鏡的A群における胃がんの発生はなく、バレット食道に関しても同様であることが確認できた。

2) ラベプラゾールを用いた *H.pylori* 除菌治療の有用性の検討（継続）

（尾割道代）

強力な酸分泌抑制作用を持つラベプラゾールを用いた、ヘリコバクター・ピロリ除菌療法の有用性を検討する。

平成25年度に登録制の前向き研究を開始した。平成25年1月から27年9月までに除菌治療・判定がなされた症例は、一次除菌クラリスロマイシン（CAM）400mg群198例、一次除菌CAM800mg群243例、二次除菌117例、シタフロキサシンを用いた三次除菌7例であった。除菌判定症例での除菌率はそれぞれ70.7%、77.4%、95.0%、100%であった。

統計学的に有意差はなかったが、昨年と同様にCAM800mg群がCAM400mg群に比べて除菌率が高い印象が得られた。これまでは、両者間で差がないという国内外の報告であったため、継続した検討が必要と思われたが、臨床においては、既により除菌率が高いとされるカリウムイオン競合型アシッドブロッキングが臨床使用の中心となってきたので、本研究は終了とした。

3) 上部消化管内視鏡検査受診者におけるヘリコバクター・ピロリ感染胃炎の実態と正確な把握に関する検討（新規）

（山崎琢士）

胃炎の内視鏡分類として「胃炎の京都分類」が提唱されているが、妥当性に関して十分な検証が行われてなく、かつ非常に複雑である。現感染胃・除菌後胃（既感染胃）・未感染胃ごとに特徴的な内視鏡所見を整理し、簡便でかつ客観性のある分類を提案することが本研究の目的である。

平成 27 年度は、ピロリ菌感染診断がなされ、性別・年齢を調整した現感染 50 例と現在非感染（未感染 25 例＋既感染 25 例）50 例を抽出し、胃炎に関する内視鏡所見を個別に比較検討した結果、現感染を示唆する感度・特異度ともに高い内視鏡所見は現段階で見出すことができなかった。

4) ABC 検診の安定性の検討（新規）

（渡海義隆）

近年、血清ペプシノゲン I/II 比とピロリ抗体検査の結果から、ピロリ感染胃炎の有無及び萎縮性胃炎の進行度を評価し、その結果から胃がんの発生率を予測する胃がんリスク検診（いわゆる ABC 検診）が注目されている。

ABC に分類される胃がんリスクは、一般的には変化しないと考えられてきたが、萎縮性胃炎の過度の進行、プロトンポンプ阻害薬（PPI）の内服、ピロリ除菌治療の影響で過小評価される危険性があるという問題点が指摘されるようになった。そこで、企業検診において 2 年連続で ABC 検診を施行した 85 症例を対象として、前年の成績との一致率を調査した結果、11 例で変化が見られた。特に C 群→A 群の 7 例は、除菌治療の結果とも推測されるが、臨床診療上も注目すべき変動と考えられた。しかし、個人情報保護の観点から、個々の患者の除菌治療の有無や服薬歴などの詳細情報を確認することができなく、判定結果の変動に関与した因子の解析を行うことは不可能であったが、1 年後に 14.8%という予想以上の頻度で ABC 判定が変動するという、1 回の ABC 検診のみで評価することの危うさを示す大変重要な結果が得られた。

5) 血清 *Helicobacter pylori* 抗体検査における陰性高値の臨床的意義（新規）

（天野由紀）

ピロリ抗体検査においては、従来は 10 未満 u/ml は感染陰性と考えられてきた。ところが、その判定基準でピロリ陰性とされてもピロリ胃炎と内視鏡診断される症例が存在することが問題視されてきた。そこで、改めてピロリ抗体検査のカットオフ値を検証するのが本研究の目的である。

平成 27 年度は、当院で血清 HP 抗体検査を行った 3721 例中、抗体価が 3 U/ml 以上 9.9 U/ml 以下（陰性高値）を示した 366 例（9.8%）のうち、内視鏡検査がなされ除菌治療歴の有無を確認できた 251 例を解析の対象とし、ピロリ胃炎の評価を行った。また、対照群として、HP 抗体価 3 未満の 250 例についても同様の解析を行った。ピロリ抗体陰性高値例の 199 例（79.3%）におい

てピロリ感染に起因すると考えられる内視鏡的胃粘膜萎縮を認めた。一方、対照群の抗体価 3 未満の症例においては、胃粘膜萎縮を認めたものは 40 例 (16.0 %) で、それらは除菌後症例であると考えられた。結果として、ピロリ陰性高値例ではピロリ感染による胃粘膜萎縮が有意に多く認められ、胃がん高危険群であると認識する必要があると考えられた。

本研究結果は、米国 DDW2015 ポスターセッション及び第 21 回日本ヘリコバクター学会学術集会ワークショップにて発表した。

Ⅲ 各種研究会

早期消化管がんの診断技術の進歩とその普及を促進するためには、多くの研究者による多様な症例についての厳しい討論の場が不可欠である。その意味で現在、当協会がかかわっている研究会（早期胃癌研究会、大腸研究会）の役割は大きく、一層の進展に努めてきた。

1 早期胃癌研究会

本研究会は、昭和 35 年に初期癌研究会として発足後 56 年を経過（昭和 39 年に早期胃癌研究会と改称）し、研究会の果たしてきた役割への高い評価と将来への期待の大きさが再認識されている。東京都を中心とした国内の大学、病院から提出される毎回平均 5 症例の X 線、内視鏡、病理検査所見について、最先端のすこぶる厳しい討論が行われた。この研究会を通じて、最新の診断技術と理論の応用と普及が図られ、胃がんを中心とする消化管がんの早期診断法及び治療法は進歩を続けている。

また、本研究会は、日本医学放射線学会から放射線科専門医更新単位取得制度学術集会として認定されている。

平成 27 年度の月例検討症例内容は、早期胃癌研究会実施明細のとおりである。

1) 研究会の運営

研究会は、専門領域や地域性を考慮し選出された 53 名の運営委員により運営されている。そのうち運営幹事が運営委員長を補佐し、研究会運営を推進している。

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

【運営委員長】 1 名

小 山 恒 男 佐久医療センター 内視鏡内科

【運営幹事】 11 名

九 嶋 亮 治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座

小 林 広 幸 福岡山王病院 消化器内科

斉 藤 裕 輔 市立旭川病院 消化器病センター

清 水 誠 治 大阪鉄道病院 消化器内科

田 中 信 治 広島大学 内視鏡診療科

長 浜 隆 司 千葉徳洲会病院 消化器内科・内視鏡センター

二 村 聡 福岡大学医学部 病理学講座

松 本 主 之 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科消化管分野

八 尾 建 史 福岡大学筑紫病院 消化器内科

八 尾 隆 史 順天堂大学大学院医学研究科 人体病理病態学

山 野 泰 徳 秋田赤十字病院 消化器病センター

【名誉幹事】 3名

飯田 三雄 公立学校共済組合九州中央病院
多田 正大 多田消化器クリニック
八尾 恒良 佐田病院 名誉院長

【顧問】 3名

岩下 明德 福岡大学筑紫病院 病理部
下田 忠和 静岡県立静岡がんセンター 病理診断科
渡辺 英伸 新潟大学医学部 名誉教授

(五十音順)

2) 雑誌「胃と腸」の発行と編集委員

早期胃癌研究会において検討された症例は、編集会議を経て、雑誌「胃と腸」に掲載される。また、毎号特集する主題が選定され、主題関連論文（X線診断、内視鏡診断、病理診断など）が編集委員を中心にして執筆、掲載される。

(平成28年3月31日現在)

【編集委員長】 1名

鶴田 修 久留米大学医学部 消化器病センター

【編集委員】 27名

赤松 泰次 長野県立病院機構須坂病院 内視鏡センター
味岡 洋一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学
井上 晴洋 昭和大学江東豊洲病院 消化器センター
江頭 由太郎 大阪医科大学 病理学
大倉 康男 杏林大学医学部 病理学教室
小澤 俊文 佐藤病院 消化器内科
小野 裕之 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科
小山 恒男 佐久医療センター 内視鏡内科
海崎 泰治 福井県立病院 病理診断科
鬼島 宏 弘前大学大学院医学研究科 病理生命科学講座
九嶋 亮治 滋賀医科大学 臨床検査医学講座
蔵原 晃一 松山赤十字病院 胃腸センター
小林 広幸 福岡山王病院 消化器内科
斉藤 裕輔 市立旭川病院 消化器病センター
清水 誠治 大阪鉄道病院 消化器内科
菅井 有 岩手医科大学医学部 病理診断学講座
高木 靖寛 福岡大学筑紫病院 消化器内科
田中 信治 広島大学 内視鏡診療科

長	南	明	道	仙台厚生病院	消化器内視鏡センター
長	浜	隆	司	千葉徳洲会病院	消化器内科・内視鏡センター
二	村		聡	福岡大学医学部	病理学講座
松	田	圭	二	帝京大学	外科
松	本	主	之	岩手医科大学医学部内科学講座	消化器内科消化管分野
門	馬	久	美子	がん・感染症センター都立駒込病院	内視鏡科
八	尾	建	史	福岡大学筑紫病院	内視鏡部
八	尾	隆	史	順天堂大学大学院医学研究科	人体病理病態学
山	野	泰	徳	秋田赤十字病院	消化器病センター

(五十音順)

早期胃癌研究会実施明細（平成 27 年度）

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
平成 27 年 4 月 15 日 出席人数/729 名 日本教育会館 3 階 一ツ橋ホール	東京都がん検診センター 消化器内科 入口 陽介 秋田赤十字病院 消化器病センター 山野 泰穂 新潟大学大学院 分子・診断病理学 味噌 洋一	1) 弘前大学大学院医学研究科 消化器血液内科学講座 2) 岐阜県総合医療センター 消化器内科 3) 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 4) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 5) 鳥取市立病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 東京都健康長寿医療センター 病理診断科	澤谷 学 山崎 健路 五十嵐公洋 金光 高雄 柴垣広太郎 新井 富生	粘膜筋板内に発生したと考えられる直腸神経原性腫瘍 肛門管尖圭コンジロームに AIN (Anal Intraepithelial Neoplasia) を合併した一例 難治性胃潰瘍性病変の一例 NBI 併用拡大内視鏡が病変内の質的診断に有用であった adenocarcinoma with adenoma の一例 Dabigatran による薬剤性食道粘膜障害の一例 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 第 2 弾「食道：Barrett 食道と腺癌」
平成 27 年 5 月 28 日 出席人数/ 475 名 第 54 回「胃と腸」大会 名古屋観光ホテル 3 階 那古	藤枝市立総合病院 消化器内科 丸山 保彦 長野県立病院機構須坂病院 内視鏡センター 赤松 泰次 福井県立病院 病理診断科 海崎 泰治 順天堂大学医学部附属静岡病院 病理診断科 和田 了	1) 藤田保健衛生大学 消化管内科 2) 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 3) 藤枝市立総合病院 消化器内科 4) 岐阜赤十字病院 消化器内科 5) 愛知県がんセンター中央病院 内視鏡部 画像診断教育レクチャー 福岡大学医学部 病理学講座	中野 尚子 杉本 真也 金子 雅直 高橋 裕司 田中 努 二村 聡	隆起表面に多発陥凹を伴った直腸カルチノイドの一例 術前診断に苦慮した稀な小腸粘膜下腫瘍の一例 SHG (Submucosal Heterotopic Gastric gland) の要素をもった胃 IFP (Inflammatory Fibroid) の一例 術前深達度診断を浅読みした食道表在がんの一例 2 年の経過がおえた食道 amelanotic malignant melanoma の一例 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 第 2 弾 「【全消化管】消化管に発生するリンパ種(前編)—消化管リンパ組織の正常構造を中心に」
平成 27 年 6 月 17 日 出席人数/762 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	神戸大学大学院医学研究科 消化器内科学分野 梅垣 英次 さっぽろ大通り内視鏡クリニック 野村 昌史 九州大学大学院医学研究院 形態機能病理学 平橋美奈子	1) 福岡赤十字病院 消化器内科 2) 東北薬科大学病院 消化器内科 3) 東京女子医科大学 消化器病センター 4) 浜松医科大学医学部附属病院 消化器内科 5) 静岡市立静岡病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 福岡大学医学部 病理学講座	平川 克哉 米地 真 小林亜也子 山中 力行 堀谷 俊介 二村 聡	小さな陥凹性病変として発見しえた食道粘表皮癌の一例 胃病変の一例 高度異型（癌化）を伴った胃型腺腫の一例 直腸 MALT リンパ腫 終末回腸原発で大腸にびまん性に拡大した T 細胞リンパ腫の一例 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 第 2 弾「【全消化管】消化管に発生するリンパ種(後編)—各病型の組織像を中心に」
平成 27 年 7 月 24 日 出席人数/ 1,252 名 グランドプリンスホテル 新高輪 国際パミール 3 階 崑崙	仙台厚生病院 消化器内視鏡センター 長南 明道 福岡山王病院 消化器内科 小林 広幸 杏林大学医学部 病理学教室 大倉 康男	1) 川崎医科大学 消化管内科学 2) 岩手医科大学 消化器内科消化管分野 3) 仙台厚生病院 消化器内視鏡センター 4) 福岡大学筑紫病院 消化器内科 5) 北九州市立医療センター 消化器内科 画像診断教育レクチャー 防衛医科大学校 病態病理学講座	松本 啓志 朝倉 謙輔 濱本 英剛 金光 高雄 村上 正俊 松原亜季子	サイトメガロウイルス腸炎が合併した大腸悪性リンパ腫の一例 小腸 X 線、内視鏡所見が得られた世界初の家族性アミロイドポリニューロパチーの一例 内反性の発育を来した胃型分化型癌の一例 断崖状の辺縁を有する分化型癌の一例 食道胃接合部に発生した腺内分泌細胞癌 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その 2「【十二指腸】正常および十二指腸炎、腫瘍様病変」
平成 27 年 8 月	休 会			
平成 27 年 9 月 16 日 出席人数/669 名 笹川記念会館 2 階 国際会議場	新潟県立吉田病院 消化器内科 八木 一芳 大阪鉄道病院 消化器内科 清水 誠治 滋賀医科大学医学部附属病院 臨床検査医学講座 九嶋 亮治	1) 国立がん研究センター東病院 消化管内視鏡科 2) 千葉徳洲会病院 消化器内科 3) 長崎医療センター 消化器内科 4) 松山赤十字病院 胃腸センター 5) 大阪鉄道病院 消化器内科	今城 眞臣 宇賀治良平 東 俊太郎 久能 宣昭 上島 浩一	異所性胃粘膜由来と考えられた頸部食道腺癌の一例 範囲診断が困難であった、癌の表層性露出をほとんど認めない固有層進展を呈した未分化癌の一例 胃サルコイドーシスの一例 腸閉塞症状を契機に診断された虫垂低分化腺癌の一例 小腸 GIST の一例

開催年月日	例会幹事	症例提示施設	発表医師	症例
平成27年10月21日 出席人数/594名 笹川記念会館2階 国際会議場	福岡大学筑紫病院 消化器内科 八尾 建史 市立旭川病院 消化器病センター 斉藤 裕輔 大阪医科大学 病理学 江頭由太郎	1) 大阪府立成人病センター 消化管内科 2) 九州労災病院 消化器内科 3) 鳥取市立病院 消化器内科 4) 中国中央病院 内科 5) 近畿大学医学部 消化器内科 画像診断教育レクチャー 獨協医科大学越谷病院 病理診断科	松浦 倫子 板場 壮一 柴垣広太郎 枝廣 暁 田中 梨絵 伴 慎一	Inverted growth pattern を示した S 状結腸粘膜内癌の一例 他の直腸肛門部悪性腫瘍との鑑別が困難であった直腸 GIST の一例 粘膜下異所性胃腺への浸潤を伴った早期胃癌の一例 胃の海綿状血管腫に対して内視鏡的粘膜下層剥離術を行った一例 胃 hamartomatous inverted polyp の一例 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その2「【小腸・大腸】正常腸粘膜と感染性腸炎」
平成27年11月18日 出席人数/461名 笹川記念会館2階 国際会議場	大阪府立成人病センター 消化管内科 上堂 文也 大阪市立十三市民病院 消化器内科 大川 清孝 獨協医科大学越谷病院 病理診断科 伴 慎一	1) 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 2) 石川県立中央病院 消化器内科 3) 岩手医科大学医学部内科学講座 消化器内科消化管分野 4) 仙台厚生病院 消化器内視鏡センター 5) 東京都がん検診センター 消化器内科 画像診断教育レクチャー 製鉄記念広畑病院 病理診断科	岸田 圭弘 竹山 健一 小坂 崇 中條恵一郎 高柳 聡 西上 隆之	内視鏡拡大観察で腺癌と扁平上皮癌の衝突癌を疑う所見を呈した食道表在癌の一例 診断に苦慮した 0-IIc 胃癌症例 胃神経内分泌癌の一例 印環細胞癌を伴った早期大腸粘液癌の一例 経過中に憩室周囲びらんを認めた憩室性大腸炎の一例 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その2 「潰瘍性大腸炎と癌—典型的な組織像(活動期, 寛解期, dysplasiaと癌)」
平成27年12月16日 出席人数/424名 笹川記念会館2階 国際会議場	静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 小野 裕之 北摂総合病院 消化器内科 佐野村 誠 東邦大学医療センター大森病院 病理診断科 根本 哲生	1) 九州大学大学院 病態機能内科学 2) 大阪市立十三市民病院 消化器内科 3) 市立奈良病院 消化器内科 4) 広島大学病院 内視鏡診療科 5) 済生会福岡総合病院 消化器内科 画像診断教育レクチャー 福岡大学筑紫病院 病理部	岡本 康治 上田 渉 北村 陽子 佐野村洋次 吉村 大輔 田邊 寛	下血を契機にカプセル内視鏡で発見された小腸動脈奇形の一例 広範囲に粘膜上皮剥離を来した IgA 血管炎の一例 胃キサントーマに合併した分化型早期胃癌の一例 胃 GIST の一例 胃角小彎潰瘍を中心に、前後壁で形態と組織型の異なる胃癌の一例 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その2「Crohn病と腸結核」
平成28年1月20日 出席人数/ 333名 ニューピアホール	佐久医療センター 内視鏡内科 小山 恒男 福岡山王病院 消化器内科 小林 広幸 岩手医科大学医学部 病理診断学講座 菅井 有	1) 藤枝市立総合病院 消化器内科 2) 岩手医科大学 消化器内科消化管分野 3) 佐久医療センター 内視鏡内科 4) 秋田赤十字病院 消化器病センター 5) 京都府立医科大学 消化器内科	丸山 保彦 川崎 啓祐 高橋亜紀子 原田 英嗣 吉田 直久	食道憩室に発生した食道原発悪性リンパ腫の一例 稀な内視鏡所見を呈した孤在性胃 NET - G2 (carcinoid tumor) の一例 Lanthanum 関連胃症の一例 微小な Carcinoma with SSA/P の一症例 通常内視鏡では診断困難なSSA/Pから発生した粘膜内癌の一例
平成28年2月17日 出席人数/406名 笹川記念会館2階 国際会議場	仙台市医療センター仙台オープン病院 消化器内科 平澤 大 がん研有明病院 消化器内科 斎藤 彰一 東京都健康長寿医療センター 病理診断科 新井 富生	1) 近畿大学医学部 消化器内科 2) 新別府病院 消化器内科 3) 静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科 4) 仙台厚生病院 消化器内視鏡センター 5) 大阪府立成人病センター 消化管内科 画像診断教育レクチャー 順天堂大学医学部附属静岡病院 病理診断科	米田 頼晃 仲谷 朋久 岩井 朋洋 中條恵一郎 金坂 卓 和田 了	II型腸管症関連 T 細胞リンパ腫の一例 経時的に観察し得た SSA/P に合併した大腸癌の一例 早期発見された食道癌肉腫の一例 胃底腺粘膜型胃癌の一例 H.pylori 陰性早期胃癌の一例 テーマ：臨床医が知っておくべき病理 その2「【大腸】腺腫と高分化腺癌」
平成28年3月16日 出席人数/384名 笹川記念会館2階 国際会議場	千葉徳洲会病院 消化器内科 長浜 隆司 広島市立安佐市民病院 内視鏡内科 永田 信二 福岡大学医学部 病理学講座 二村 聡	1) 高知赤十字病院 消化器内科 2) 福岡大学医学部 消化器内科 3) 松山赤十字病院 胃腸センター 4) 徳島県立中央病院 消化器内科 5) 岩手医科大学 消化器内科消化管分野	内多 訓久 石橋 英樹 原田 英 高橋 幸志 鳥谷 洋右	ピロリ除菌後に発見された胃底腺型胃ガンの一例 乳癌(小葉癌)胃転移の一例 Brunner 腺由来の十二指腸癌の一例 限局性直腸アミロイドーシスの一例 low grade と high grade のSSA/Pが併存し、その内視鏡像を詳細に観察し得た早期大腸癌の一例

2 大腸研究会（毎月第4月曜日開催）

東京都を中心に国内の大学、病院から提出される症例について、X線、内視鏡、病理所見について最先端の検討、討論を行った。

この研究会を通じて、「早期大腸がんの診断能の確立と普及」という大テーマが着実に進行し、若手研究者の育成に大いに貢献している。

平成27年度の月例検討症例内容は、大腸研究会実施明細のとおりである。

（平成28年3月31日現在）

【代表世話人】 1名

鶴田 修 久留米大学医学部 消化器病センター

【世話人】 10名

味岡 洋一 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子・診断病理学
池上 雅博 東京慈恵会医科大学病院 病理部
大倉 康男 杏林大学医学部 病理学教室
斎藤 彰一 がん研有明病院 下部消化管内科
高木 篤 みなと医療生活協同組合協立総合病院 内科
津田 純郎 岡山済生会総合病院健診センター
富樫 一智 福島県立医科大学 会津医療センター
小腸・大腸・肛門科学講座
長浜 隆司 千葉徳洲会病院 消化器内科・内視鏡センター
西俣 嘉人 南風病院 政記念消化器病研究所
渡邊 聡明 東京大学大学院医学研究科 臓器病態外科学講座
腫瘍外科学

【会計幹事】 2名

河野 弘志 聖マリア病院 消化器内科
中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック

（五十音順）

大腸研究会実施明細（平成 27 年度）

開催年月日	症例提示施設	発表医師	出席人数
平成 27 年 4 月 27 日	1) 京都府立医科大学 消化器内科 2) 協立総合病院 内科 3) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科	吉田 直久 小西 隆文 斎藤 彰一	38 名
平成 27 年 5 月	休 会		
平成 27 年 6 月 22 日	1) 協立総合病院 内科 2) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科 3) 久留米大学医学部 消化器病センター	小西 隆文 斎藤 彰一 前山 泰彦	44 名
平成 27 年 7 月 27 日	1) 協立総合病院 内科 2) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科	小西 隆文 斎藤 彰一	43 名
平成 27 年 8 月	休 会		
平成 27 年 9 月 28 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科 3) 久留米大学医学部 消化器病センター	名和 晋輔 斎藤 彰一 前山 泰彦	30 名
平成 27 年 10 月	休 会		
平成 27 年 11 月 30 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 久留米大学病院 消化器内科 3) 佐久医療センター 内視鏡内科 4) 東京慈恵会医科大学 内視鏡科	小西 隆文 永田 務 篠原 知明 斎藤 彰一	39 名
平成 27 年 12 月 21 日	1) 協立総合病院 消化器内科 2) 佐久医療センター 内視鏡科	小西 隆文 篠原 知明	36 名
平成 28 年 1 月 25 日	1) 福島県立医科大学会津医療センター 小腸大肛門科 2) 協立総合病院 内科 3) 久留米大学病院 消化器内科 ミニレクチャー 調布外科消化器科内科クリニック	根本 大樹 小西 隆文 久永 宏 中村 尚志	40 名
平成 28 年 2 月 22 日	1) 佐久医療センター 内視鏡内科 2) 福岡大学筑紫病院 消化器内科	篠原 知明 石原 裕士	47 名
平成 28 年 3 月 28 日	1) 佐久医療センター 消化器内科 2) 協立総合病院 内科 3) がん研有明病院 内視鏡診療部	篠原 知明 小西 隆文 岸原 輝仁	48 名

会場：4～2 月 東京慈恵会医科大学高木 2 号館 地下 1 階南講堂
3 月 東京慈恵会医科大学大学 1 号館 6 階講堂

IV 研究成果の発表（下線は他施設共同研究者）

1 論文・著書

<原 著>

- 1) 榊 信廣 上堂 文也 渡 二郎 三輪 洋人
「ボノプランザによる消化性潰瘍の治癒促進効果」
Progress in Medicine 第35巻8号 1297-1301 ライフ・サイエンス
平成27年8月

- 2) 中島 寛隆 山崎 琢士 尾割 道代 渡海 義隆 天野 由紀
長浜 隆司 榊 信廣 吉田 操
「早期胃癌の深達度診断 X線造影像を用いた深達度診断」
胃と腸 第50巻5号 増刊号 593-601 医学書院
平成27年5月

- 3) 中島 寛隆 尾割 道代 山崎 琢士 渡海 義隆 天野 由紀
長浜 隆司 榊 信廣 吉田 操
「胃 X線検診の現状と展望 任意型検診の立場から」
胃と腸 第50巻8号 1021-1029 医学書院
平成27年7月

<総説・その他>

- 1) 榊 信廣
「胃潰瘍や胃がんの原因になるピロリ菌って何？」
機関誌 Healthy mates SPRING 2015 No.135 9-11 白寿生科学研
究所
平成27年5月

- 2) 榊 信廣
「*Helicobacter pylori* 感染診断における生検の役割と注意点」
消化器内視鏡 第27巻6号 972-973 東京医学社
平成27年6月

- 3) 榊 信廣
「わたしの研究歴」
G.I.Research 第23巻6号 547-551 先端医学社
平成27年12月

- 4) 榊 信廣
「竹本忠良先生 追悼の記 チャンスを皆に」
消化器内視鏡 第27巻12号 1909-1911 東京医学社
平成27年12月
- 5) 榊 信廣 尾割 道代
「*Helicobacter pylori* 診療の保険適用と今後の展開」
Helicobacter Research Vol.20 No.1 2016 先端医学社
平成28年2月

<著 書>

- 1) 渡海 義隆 中島 寛隆 榊 信廣
「X線検診のデメリット・偶発症の受診者説明と対応法」
『血清ABC検診で 内視鏡で X線で 胃炎をどうする？ 検診から対策
まで』 158-161 日本医事新報社
平成27年10月
- 2) 榊 信廣
「除菌治療が必要な人は？」
『ピロリ除菌治療パーフェクトガイド』 1-4 日本医事新報社
平成27年10月
- 3) 山崎 琢士
「血清抗体価の評価の注意—偽陰性・薬剤の影響」
『ピロリ除菌治療パーフェクトガイド』 12 日本医事新報社
平成27年10月
- 4) 榊 信廣
「除菌治療後に潰瘍が発生した?!」
『ピロリ除菌治療パーフェクトガイド』 65-66 日本医事新報社
平成27年10月
- 5) 榊 信廣
「いつからピロリ菌と呼ばれるようになったのか？」
『ピロリ除菌治療パーフェクトガイド』 172 日本医事新報社
平成27年10月

6) 榊 信廣

「消化性潰瘍診療ガイドライン 2015（改訂第 2 版）」

今日の治療指針 2016 1982-1986 医学書院

平成 28 年 1 月

2 学会活動

- 1) Takuji Yamasaki Yuki Amano Yoshitaka Tokai Michiyo Owari
Hirotaka Nakashima Nobuhiro Sakaki Misao Yoshida
「Most of the cases that show gray-zone *Helicobacter pylori* antibody
titer have gastric cancer risks」
Digestive Disease Week 2015 ポスターセッション アメリカ
平成 27 年 5 月 19 日
- 2) 吉田 操
「咽喉頭表在癌の内視鏡診断」
第 39 回日本消化器内視鏡学会セミナー 司会 愛知
平成 27 年 5 月 31 日
- 3) 榊 信廣
「胃粘膜の拡大観察」
第 39 回日本消化器内視鏡学会セミナー 司会 愛知
平成 27 年 5 月 31 日
- 4) 山崎 琢士 天野 由紀 渡海 義隆 榊 信廣
「血清 *H.pylori* 抗体陰性高値例における内視鏡的胃粘膜萎縮と胃癌リス
ク」
第 21 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ワークショップ 兵庫
平成 27 年 6 月 27 日
- 5) 山崎 琢士 千葉井 基安
「*H.pylori* 除菌治療における EAC・EAM レジメンの有用性に関する研
究」
第 21 回日本ヘリコバクター学会学術集会 パネルディスカッション 兵庫
平成 27 年 6 月 27 日
- 6) Hirotaka Nakashima
「A transition of Gastric Cancer Screening program from gastrography
to endoscopy in Japanese Society」
The 7th International Course of Digestive Endoscopy evidence-based
therapeutics 講演 コロンビア
平成 27 年 6 月 27 日
- 7) Hirotaka Nakashima
「The relationship between diagnosing *H.pylori* induced gastritis by
endoscopy or gastrography and predicting the risk of Gastric Cancer」
The 7th International Course of Digestive Endoscopy evidence-based

therapeutics 講演 コロンビア
平成 27 年 6 月 27 日

- 8) Hirotaka Nakashima
「Colombian's Gastric Cancer Screening program: Recommendations of a Japanese expert」
The 7th International Course of Digestive Endoscopy evidence-based therapeutics 講演 コロンビア
平成 27 年 6 月 28 日

- 9) Hirotaka Nakashima
「Gastric cancer screening program with endoscopy : preparation, procedure, how to pick up cancer and quality control system」
The 7th International Course of Digestive Endoscopy evidence-based therapeutics 講演 コロンビア
平成 27 年 6 月 28 日

- 10) 山本 美穂
「ザ・ベストイメーシングコンテスト」
第 75 回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部学術集会 第 17 回超音波
研修委員会 司会 山梨
平成 27 年 8 月 29 日

- 11) 渡海 義隆 山崎 琢士 天野 由紀 尾割 道代 中島 寛隆
榊 信廣 吉田 操
「*H.pylori* (HP) 除菌後胃での癌検出困難因子の検討」
第 23 回 JDDW 第 57 回日本消化器病学会大会 シンポジウム 東京
平成 27 年 10 月 10 日

- 12) 山本 美穂
「初心者のための腹部超音波実技講習会」
日本消化器がん検診学会関東甲信越支部超音波研修委員会 実技指導講師
東京
平成 28 年 2 月 13 日

3 研究会・研修会における講演

- 1) 榑 信廣
「病理医からの提言－内視鏡医に期待するもの－」
第15回 EMR/ESD 研究会 ミニレクチャー 司会 東京
平成27年7月19日
- 2) 榑 信廣
「胃の健康とは－ピロリ菌の問題を中心に－」
税理士桜友会新宿支部 平成27年度研修会 講演 東京
平成27年7月22日
- 3) 中島 寛隆
「そこが知りたい！胃がんの診断」
第3回千葉消化器画像診断研究会 講演 千葉
平成27年8月29日
- 4) 中島 寛隆
「新しい時代の胃がん X線検診について」
平成27年度胃がん検診読影従事者講習会 講演 東京
平成27年9月7日
- 5) 中島 寛隆
「基礎からわかる背景粘膜」
胃 X線検査楽しく学ぶ九州大会 講演 福岡
平成27年11月14日
- 6) 山本 美穂
「超音波検査技術講習会」
全国労働衛生団体連合会 実技指導講師 東京
平成27年11月21・22日
- 7) 榑 信廣
「ピロリ除菌と病診連携－除菌治療と経過観察－」
第8回十二番丁消化器病勉強会 特別講演 和歌山
平成27年11月28日

- 8) 中島 寛隆
「胃がん X 線検診における基準撮影法と読影法」
平成 27 年度第 2 回文京区胃がん検診研修会 特別講演 東京
平成 27 年 12 月 2 日
- 9) 山崎 琢士
「ピロリ菌胃炎除菌保険適応後 2 年経過で明らかになった今後の課題」
第 256 回消化器病研修会 講演 千葉
平成 28 年 1 月 15 日
- 10) 中島 寛隆
「早期胃がんの臨床診断と胃がん検診の向上」
第 164 回南薩胃腸疾患検討会 第 286 回南薩内科医会 特別講演 鹿児島
平成 28 年 1 月 15 日
- 11) 榑 信廣
「除菌治療の進歩」
Helicobacter カンファレンス 2016 第一部教育講演 座長 東京
平成 28 年 1 月 30 日
- 12) 榑 信廣
「ピロリ菌の新しい話題－ABC 検診と除菌治療－」
荏原医師会講演会 講演 東京
平成 28 年 3 月 26 日
- 13) 吉田 操
「食道癌の早期発見－現状と成果－」
日本工業倶楽部 講演 東京
平成 28 年 3 月 30 日

4 共同研究

<学会活動>

- 1) 徳永 健吾 伊藤 慎芳 水野 滋章 榊 信廣 他
「キタフロキサシンを用いた *H.pylori* 三次除菌療法の有用性－東京都内多施設検討－」
第 21 回日本ヘリコバクター学会学術集会 ポスター 兵庫
平成 27 年 6 月 26 日

- 2) 正岡 建洋 鈴木 秀和 西澤 俊宏 榊 信廣 他
「東京都内多施設共同調査による *Helicobacter pylori* 一次・二次除菌率の経年変化 続報」
第 21 回日本ヘリコバクター学会学術集会 パネルディスカッション 兵庫
平成 27 年 6 月 27 日

B 研修事業

I 実技研修の受入れ

当協会における実技研修を希望する医師、放射線技師を受け入れて指導した。主たる研修内容は、消化管のX線検査、内視鏡検査であり、医師1人、放射線技師1人を受け入れた。

1 国内医師

所属施設	受入数	研修期間		
		～3ヶ月	～6ヶ月	～12ヶ月
鈴木胃腸消化器クリニック	1			1
計	1			1

2 放射線技師

所属施設	受入数	研修期間		
		～3ヶ月	～6ヶ月	～12ヶ月
医療法人社団七星会 カスガメディカルクリニック	1	1		
計	1	1		

II 平成消化器懇話会の開催

地元開業医等を対象とする勉強会であり、専門医師の最新の診断や治療についての講演が聞けるということで多くの参加があり、有意義な会となった。

『平成27年度第1回』

開催日：平成27年7月17日（金）

場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック

講演者：広島大学病院消化器・代謝内科 伊藤 公訓准教授

演題：「ピロリ菌陰性胃がんについて」

『平成27年度第2回』

開催日：平成27年11月27日（金）

場所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック

講演者：新潟大学大学院保健学研究科

検査技術科学分野 岩渕 三哉教授

演題：「消化管内分泌細胞腫瘍の病理－特性、分類、診断－」

『平成 27 年度第 3 回』

開 催 日：平成 27 年 2 月 5 日（金）

場 所：早期胃癌検診協会 附属茅場町クリニック

講 演 者：昭和大学江東豊洲病院 消化器センター 井上 晴洋教授

演 題：「食道アカラシア及び関連疾患の診断と治療
－1,000 例の経験から」

Ⅲ 外国人医師に対する研修

1 2015 日中早期胃大腸腫瘍学術検討会

日本の消化管内視鏡診断学・病理組織学の中国への伝達と指導を行い、日本の消化管がんの内視鏡診断学・病理診断学を導入・定着させるとともに、上海においても消化管がんの早期発見・内視鏡治療を実現することにより、中国国民の福祉向上に貢献することを目的とし、日中両国の専門家が学術発表・症例検討・ライブデモを行った。

開催場所：中国上海交通大学附属瑞金病院講堂及び内視鏡検査センター

開催期日：平成 27 年 11 月 21 日～11 月 22 日

主 催 者：上海交通大学医学院附属瑞金病院 消化器内科
中華医学会消化器病学会上海分会
公益財団法人早期胃癌検診協会

平成 27 年 11 月 21 日

<講演内容>

「バレット食道癌の内視鏡診断」

小山 恒男 佐久医療センター内視鏡内科部長

「早期大腸癌の内視鏡診断」

山野 泰穂 秋田赤十字病院消化器病センター長

「食道表在癌の内視鏡診断」

川田 研郎 東京医科歯科大学食道外科助教

「消化管悪性リンパ腫」

中村 昌太郎 岩手医科大学消化器内科消化管分野准教授

「高分化型胃癌の病理診断」

岩下 明德 福岡大学筑紫病院病理部教授

<ライブデモンストレーション>

1 例目「早期食道がん」

内視鏡診断 : 川田 研郎 東京医科歯科大学食道外科助教
同患者の ESD : 小山 恒男 佐久医療センター内視鏡内科部長

2 例目「早期大腸がん」

内視鏡診断と EMR : 山野 泰穂 秋田赤十字病院消化器病センター長
その他中国側から 3 例のライブデモンストレーション

<症例検討会>

「胃癌症例」

中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック所長

「小腸多発潰瘍症例」

瑞金病院消化器内科

平成 27 年 11 月 22 日

<講演内容>

「早期胃癌の臨床病理学的検討」

中島 寛隆 早期胃癌検診協会附属茅場町クリニック所長

C クリニック運営事業

1 検診事業

企業からの委託による従業員を対象とした健康診断をはじめとして、中央区民を対象とした区民検診、個人の方を対象とした健康診断等、さまざまな健康診断を行った。

人間ドック（日帰り半日コース）、生活習慣病検診、法定検診及び婦人科検診等の各種検診の検診受診者は 12,905 人であった。

また、企業の従業員検診については、委託企業へ出向きそこで検診を行う巡回検診にも対応しており、検診受診者は 6,774 人であった。

2 診療事業

地域住民、近隣事業所勤務者のほか、近隣医療機関等からの紹介により、当クリニックの受診を希望する方を対象に外来診療を行った。

診療日：月曜日～土曜日（土曜日は、第 2 及び第 4 週の午前中のみ）

診療時間：午前 9 時～午後 4 時（午前 11 時 30 分～午後 1 時を除く。）

診療科目：内科、消化器科、呼吸器専門外来、肝臓専門外来

来院数（年間延べ人数）：11,580 人

3 特定保健指導

特定健診においてメタボリック症候群該当者と判定された特定保健指導対象者に対して、特定保健指導を行った。

指導日：月曜日～金曜日

指導時間：午後 1 時～午後 4 時

指導内容：医師による面談、保健師による指導、行動目標及び行動計画の作成等

4 その他

研究のテーマを臨床面から促進するため、職域集団を対象とする集団検診及び精密検査、その後の経過管理システムの構築を進め一定の成果を上げているが、さらにデータ整備システムを補強した。

また、急増している大腸がんの早期発見技術を確立するため、引き続き大腸検査の受診率向上とその検査機能の進歩に努めた。

1 平成 27 年度 施設内検診件数

(単位：件)

	人間ドック	生活習慣病 検 診	法定検診	婦 人 科 検 診	計
4 月	188	237	115	0	540
5 月	279	381	158	24	842
6 月	550	558	248	112	1,468
7 月	661	401	260	78	1,400
8 月	606	326	265	0	1,197
9 月	556	305	319	35	1,215
10 月	603	408	432	173	1,616
11 月	544	340	253	127	1,264
12 月	495	204	130	0	829
1 月	346	167	304	0	817
2 月	403	319	266	0	988
3 月	353	93	278	5	729
計	5,584	3,739	3,028	554	12,905

* 婦人科検診は、人間ドック、生活習慣病検診及び法定検診における婦人科オプション項目以外で乳がん、子宮がん、卵巣がん、子宮筋腫等の検査を行った件数である。

2 平成 27 年度 巡回検診件数

(単位：件)

	検 診	胃 検 診	計
4 月	1,067	254	1,321
5 月	75	329	404
6 月	911	387	1,298
7 月	433	321	754
8 月	771	315	1,086
9 月	106	389	495
10 月	0	160	160
11 月	107	371	478
12 月	0	145	145
1 月	0	170	170
2 月	0	213	213
3 月	0	250	250
計	3,470	3,304	6,774

3 平成 27 年度 外来受診者数

(単位：人)

	平成 27 年度	平成 26 年度	差 引
4 月	859	753	106
5 月	719	700	19
6 月	1,015	835	180
7 月	1,035	914	121
8 月	962	925	37
9 月	936	941	△5
10 月	1,057	966	91
11 月	972	914	58
12 月	1,012	978	34
1 月	880	899	△19
2 月	1,054	962	92
3 月	1,079	990	89
計	11,580	10,777	803

4 平成27年度 上部消化管 X線検査

① 目的別検査件数

(単位：件)

項目		計	性別		受診歴	
			男性	女性	初回	逐年
検診	任意型	5,658	4,419	1,239	1,339	4,319
			(78.1%)	(21.9%)	(23.7%)	(76.3%)
	対策型	4,835	3,756	1,079	773	4,062
			(77.7%)	(22.3%)	(16.0%)	(84.0%)
一般診療		8	6	2	8	0
			(75.0%)	(25.0%)	(100.0%)	(0.0%)
計		10,501	8,181	2,320	2,120	8,381

- ・「任意型」とは、個人の死亡リスクの減少を目的とする医療機関等から任意で提供されるがん検診をいう。
- ・「対策型」とは、企業や学校等の死亡率減少を目的とする公共的な予防対策として実施されるがん検診をいう。

② 受診者の年齢構成

(単位：件)

年齢	～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～	計
任意型検診	94	1,094	2,145	1,623	650	51	1	5,658
対策型検診	41	888	2,126	1,308	440	30	2	4,835
計	135	1,982	4,271	2,931	1,090	81	3	10,493

③ 要精検率と精検受診者率（施設内）

(単位：件)

	検診全体					初回検診群					逐年検診群				
	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数	要精検者数 (要精検率)	精検受診者数 (精検受診率)	検査総数			
任意型	374	6.6%	74	19.8%	5,658	97	7.2%	16	16.5%	1,339	277	6.4%	58	20.9%	4,319
対策型	289	6.0%	167	57.8%	4,835	45	5.8%	23	51.1%	773	244	6.0%	144	59.0%	4,062
計	663	6.3%	241	36.3%	10,493	142	6.7%	39	27.5%	2,112	521	6.2%	202	38.8%	8,381

- ・「要精検率」とは、検診受診者総数に対し、精密検査が必要とされた者の割合＜要精検率(%) = 要精検者数/受診者総数＞をいう。
- ・「精検受診率」とは、精密検査が必要とされた者のうち、実際に精密検査を受診したものの割合＜精検受診率(%) = 精検受診者数/要精検者数＞をいう。

④ 年齢階級別成績（検診全体）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	135	468	1,514	2,073	2,198	1,698	1,233	832	258	64	17	3	10,493
要精検者数	2	7	50	74	97	119	119	131	43	14	6	0	662	
精検受診者数	1	2	14	29	34	44	55	42	9	8	3	0	241	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	2	7	2	5	9	3	3	2	1	0	34
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	1	1	1	6	5	11	1	0	1	0	27
	その他の良性疾患	0	0	7	14	25	24	34	24	5	4	0	0	137
	異常なし	1	2	4	7	6	8	6	2	0	0	1	0	37
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2

⑤ 年齢階級別成績（任意型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	40	97	273	253	236	197	122	84	0	0	0	0	1,302
要精検者数	1	1	13	8	12	12	15	22	0	0	0	0	84	
精検受診者数	0	0	1	3	2	3	2	5	0	0	0	0	16	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	その他の良性疾患	0	0	0	1	1	1	1	2	0	0	0	0	6
	異常なし	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1

⑥ 年齢階級別成績（任意型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
	受診者数	54	141	583	792	864	731	573	386	147	42	5	0	4,318
要精検者数	1	0	23	28	41	48	46	60	21	7	2	0	277	
精検受診者数	1	0	3	7	6	8	12	15	3	3	0	0	58	
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	0	2	1	2	0	0	0	0	5
	胃潰瘍（癒痕を含）	0	0	0	1	1	2	1	4	0	0	0	0	9
	その他の良性疾患	0	0	3	3	5	4	10	8	3	3	0	0	39
	異常なし	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑦ 年齢階級別成績（対策型検診 初回受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
		受診者数	22	93	106	147	160	119	57	44	14	4	6	1
	要精検者数	0	2	0	9	7	7	5	8	2	1	3	0	44
	精検受診者数	0	0	0	3	4	2	4	4	2	1	3	0	23
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4
	胃潰瘍（瘢痕を含）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	3
	その他の良性疾患 ⁹	0	0	0	3	3	2	2	3	0	1	0	0	14
	異常なし	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

⑧ 年齢階級別成績（対策型検診 逐年受診）

（単位：件）

	項目/年齢	~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	55~59	60~64	65~69	70~74	75~79	80~	計
		受診者数	19	137	552	881	938	651	481	318	64	15	5	1
	要精検者数	0	4	14	29	37	52	53	41	8	5	1	0	244
	精検受診者数	0	2	10	16	22	31	37	18	4	4	0	0	144
精密検査	胃癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	非上皮性悪性腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃腺腫（異型上皮）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	胃ポリープ	0	0	1	5	1	3	7	1	2	2	0	0	22
	胃潰瘍（瘢痕を含）	0	0	1	0	0	4	3	5	0	0	0	0	13
	その他の良性疾患	0	0	4	7	16	17	21	11	2	1	0	0	79
	異常なし	0	2	4	4	5	6	6	1	0	0	0	0	28
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	食道癌	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5 平成 27 年度 X 線検査件数

(単位：件)

部位別検査	検 診 形 態		検 査 件 数
胸 部	外 来	51	17,249
	契約検診	12,006	
	集団検診（施設）	2,123	
	集団検診（車）	3,069	
上部消化管	外 来	8	10,501
	契約検診	5,658	
	集団検診（施設）	1,878	
	集団検診（車）	2,957	
下部消化管			28
胸 部 CT			914
腹 部 CT			41
頭 部 CT			4
マンモグラフィ			1,191
骨 密 度			777
内臓脂肪測定			190
計			30,895

6 平成 27 年度 内視鏡検査件数

(単位：件)

検査件数	
上部消化管	5,992
経鼻内視鏡の内訳	<1,030>
下部消化管	1,996
計	7,988
生検件数	
上部消化管	588
下部消化管	241
計	829
下部消化管治療件数	
大腸粘膜切除術 (EMR)	117

(単位：件)

鎮静剤使用による検査件数	
上部消化管	2,392
下部消化管	936
計	3,328

生検件数：内視鏡下で組織片を得るための検査件数であり、病理組織診断、ヘリコバクター・ピロリ感染診断、細菌培養同定検査を目的としている。

7 平成 27 年度 病理検査件数

(単位：件)

		施設内症例		施設外症例		計
		上 部	下 部	上 部	下 部	
組織検査	生 検	586	243	—	—	829
	内視鏡切除	1	128	3	—	132
	外科切除	1	2	4	1	8
計		961		8		969

細胞検査	婦人科材料	2,212
------	-------	-------

8 平成 27 年度 がん患者数

(単位：人)

	食道がん		胃 がん		大腸がん	
	男 性	女 性	男 性	女 性	男 性	女 性
～29 歳						
30～34 歳						
35～39 歳						
40～44 歳					1	
45～49 歳				1	1	
50～54 歳					5	1
55～59 歳			3	1	4	2
60～64 歳	2		6	1	3	3
65～69 歳	1		4		2	
70～74 歳	1		2		1	1
75～79 歳					2	
80 歳～						1
小 計	4	0	15	3	19	8
計	4		18		27	

9 平成 27 年度 食道がん占拠部位別件数

(単位：件)

Ce	
Ut	
Mt	3
Lt	1
Ae	
EG	
計	4

10 平成 27 年度 胃がん占拠部位

(単位：件)

	Less	Gre	Ant	Post	計
U				1	1
M	6	1		4	11
L	2	1	1	1	5
Other	1				1
計	9	2	1	6	18

11 平成 27 年度 大腸がん占拠部位と肉眼形態

(単位：件)

	0					1	2	3	計
	Ip	Isp	Is	IIa	IIc				
C				1			1		2
A	1					1	1		3
T				1					1
D				1		1			2
S		3		2		1	1		7
RS		1					1		2
R		4	4			1		1	10
計	1	8	4	5	0	4	4	1	27

12 平成 27 年度 腹部超音波検査件数

(単位：件)

		契約検診		外 来		計
		6,299		585		6,884
		男 性	女 性	男 性	女 性	
		4,799	1,500	371	214	
有 所 見 内 訳	脂肪肝	1,965	225	150	26	2,366
	肝嚢胞	1,294	300	119	73	1,786
	肝血管腫（疑い）	441	186	44	22	693
	肝腫瘍（疑い）	30	11	2	1	44
	慢性肝疾患	13	2	3	2	20
	肝硬変	9	0	5	1	15
	門脈瘤	7	0	2	0	9
	肝内石灰化	212	39	33	11	295
	胆嚢ポリープ	1,418	299	129	39	1,885
	胆石	244	60	44	16	364
	胆嚢腺筋腫症	126	34	9	9	178
	慢性胆嚢炎	3	0	3	0	6
	胆嚢壁内結石	136	19	13	3	171
	膵嚢胞	58	22	13	14	107
	膵石	6	3	1	0	10
	膵腫瘍（疑い）	7	1	5	3	16
	腎嚢胞	1,334	201	132	53	1,720
	腎結石・尿管結石	158	24	14	2	198
	水腎症	40	13	8	8	69
	腎内石灰化	1,008	170	65	27	1,270
	腎血管筋脂肪腫	32	32	2	5	71
	腎腫瘍（疑い）	15	6	5	0	26
	馬蹄腎	8	3	1	0	12
脾嚢胞	6	4	0	0	10	
脾腫瘍（疑い）	4	1	0	0	5	
副腎腫瘍	7	4	3	0	14	

13 平成 27 年度 乳腺超音波検査件数及び有所見者数

乳腺超音波件数	1,509 件
---------	---------

有所見 内訳

(単位：件)

内 訳	契約検診	外 来	計
乳腺症	29	2	31
乳腺腫瘍（疑い）	39	1	40
乳腺嚢胞	789	17	806
嚢胞内腫瘍（疑い）	0	0	0
非浸潤癌（疑い）	1	0	1
浸潤癌（疑い）	7	0	7
線維腺腫（疑い）	265	5	270
乳房脂肪腫	1	0	1
乳管拡張症	29	1	30

14 平成 27 年度 臨床検査件数

(単位：件)

種 別	件 数
生 化 学	213,269
検 尿	79,878
検 便	20,073
血 液	74,294
血 清 学	34,499
ウイルス (HIV)	1
細 菌	34
合 計	422,048

15 平成 27 年度 臨床検査別件数

(単位：件)

種 別		件 数
生 化 学	蛋 白	22,254
	糖	24,434
	脂 質	59,759
	酵 素	67,340
	その他	39,482
	計	213,269
検 尿		79,878
検 便	検 便	18,193
	検便 (虫卵)	1,880
	計	99,951
血 液	血液形態学	584
	血液凝固	393
	血球計数	73,317
	計	74,294
血清学検査		34,499
ウイルス (HIV)		1
細 菌		34
合 計		422,048

D 啓発事業

研究事業の成果を社会還元するため、消化器がんに対する正しい認識と早期発見のための定期検診の重要性を中心として、これからの健康管理に資するべく、がん対策の基礎知識並びに生活習慣病も含む、幅広い健康管理法について各種の啓発活動を行った。

また、同主旨のもと周辺医師会・病院・企業健康管理室等と連携し、講演会、勉強会等を通しての読影・診断 X 線（胃透視）、上部・下部内視鏡、超音波などの技術の向上と健康意識の普及に努めた。

1 保健指導者セミナー

開催日：平成 27 年 11 月 17 日（火）

場所：鉄鋼会館 会議室

講師：国際医療福祉大学化学療法研究所附属病院

消化器内科統括部長・内視鏡部長 天野 祐二

テーマ：「胃食道逆流症（GERD）と発癌：その動向と対策」

* セミナーの内容をまとめた冊子を作成しているところであり、今後、無料配布する予定である。

2 ニュースレター

消化器がんや医療機器について、わかりやすく解説したニュースレターを発行した。平成 27 年度は、次の事項を取り上げ、疾病等に関する普及啓発に努めた。

第 24 号 「経鼻内視鏡のススメ」

第 25 号 「低線量肺がん CT 検診」

第 26 号 「インフルエンザについて」

第 27 号 「便秘症について」

第 28 号 「鎮静剤を使用した大腸内視鏡検査について」

第 29 号 「腫瘍マーカー検査について」

E 法人運営

1 評議員会・理事会の開催

第12回 理事会

日 時	平成27年5月25日(月) 16時から
場 所	東京証券会館 9階 第8会議室
出席数	理事9名、監事1名
決議事項	① 平成26年度事業報告書・計算書類等の件 ② 第4回評議員会の日時、場所及び目的である事項の件
報告事項	平成26年度資金運用実績について

第4回 評議員会

日 時	平成27年6月18日(木) 16時から
場 所	東京証券会館 9階 第8会議室
出席数	評議員8名、理事3名
決議事項	① 平成26年度事業報告書・計算書類等の件 ② 評議員選任の件

第13回 理事会

日 時	平成27年11月9日(月) 16時から
場 所	東京証券会館9階 第6会議室
出席数	理事11名、監事1名
決議事項	① 特定個人情報等取扱規程の制定の件 ② 就業規則の一部改正の件 ③ 契約職員の就業に関する規程の一部改正の件 ④ 嘱託職員の就業に関する規程の一部改正の件
報告事項	業務執行状況について

第14回 理事会

日 時	平成28年3月17日(木) 16時から
場 所	東京証券会館9階 第8会議室
出席数	理事9名、監事1名
決議事項	① 平成28年度事業計画書・収支予算書の件 ② 経理規程の一部改正の件 ③ 組織の変更の件 ④ 平成28年度資金運用の方針及び運用計画の件
報告事項	業務執行状況について

2 研究用機器の整備

研究対象の底辺拡大とがん検診の高度化及び総合化への社会要請の変化に対応し、質・量ともに研究事業の成果の向上及び検診事業の充実を図るため、引き続き研究用機器を整備した。

- ・ 内視鏡システム及びスコープ

3 資金計画

機器装置、設備等の更新及び事業の実施等に必要な資金は、自己資金のほか、寄附金、賛助会費及び補助金等の援助を得て賄うとともに、計画的な執行に努めた。

4 法令遵守（コンプライアンス）の徹底

当協会の規程等の見直しを行い、内部統制が確実に実行できるようにした。また、職員に対して法令及び規程等を周知し、その徹底を図った。

平成 27 年度 計算書類等

A 貸借対照表

平成 28 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	140,748,003	139,101,541	1,646,462
未収金	67,998,505	67,822,907	175,598
薬品	712,355	666,796	45,559
診療材料	83,390	24,383	59,007
貯蔵品	679,440	546,489	132,951
前払費用	10,701,033	10,831,199	△ 130,166
流動資産合計	220,922,726	218,993,315	1,929,411
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	830,275	601,377	228,898
投資有価証券	199,169,725	199,398,623	△ 228,898
基本財産合計	200,000,000	200,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	51,234,292	47,031,012	4,203,280
減価償却引当資産	83,000,000	83,000,000	0
特定資産合計	134,234,292	130,031,012	4,203,280
(3) その他固定資産			
敷金	18,383,640	18,383,640	0
入居保証金	4,080,000	4,080,000	0
造作設備	23,774,197	29,635,752	△ 5,861,555
什器備品	33,055,988	38,597,344	△ 5,541,356
研究機器	86,924,860	100,674,437	△ 13,749,577
ソフトウェア	1,105,659	505,435	600,224
電話加入権	1,798,182	1,798,182	0
繰延消費税	0	110,544	△ 110,544
一括償却資産	317,804	590,335	△ 272,531
その他固定資産合計	169,440,330	194,375,669	△ 24,935,339
固定資産合計	503,674,622	524,406,681	△ 20,732,059
資産合計	724,597,348	743,399,996	△ 18,802,648
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	11,508,937	11,973,788	△ 464,851
未払費用	21,431,936	23,767,687	△ 2,335,751
未払金	16,618,113	14,642,944	1,975,169
リース債務	30,759,484	28,867,260	1,892,224
預り金	1,680,274	1,735,254	△ 54,980
賞与引当金	12,404,373	12,550,906	△ 146,533
未払消費税	5,888,900	10,659,800	△ 4,770,900
流動負債合計	100,292,017	104,197,639	△ 3,905,622
2. 固定負債			
役員退職慰労引当金	21,797,800	0	21,797,800
退職給付引当金	29,436,492	47,031,012	△ 17,594,520
長期未払金	5,413,359	6,354,591	△ 941,232
リース債務	79,433,917	96,811,625	△ 17,377,708
固定負債合計	136,081,568	150,197,228	△ 14,115,660
負債合計	236,373,585	254,394,867	△ 18,021,282
III 正味財産の部			
一般正味財産	488,223,763	489,005,129	△ 781,366
(うち基本財産への充当額)	(200,000,000)	(200,000,000)	
正味財産合計	488,223,763	489,005,129	△ 781,366
負債及び正味財産合計	724,597,348	743,399,996	△ 18,802,648

B 正味財産増減計算書

平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,301,614	1,275,702	25,912
② 特定資産運用益			
特定資産受取利息	205,925	304,100	△ 98,175
特定資産受取配当金	189,840	30,670	159,170
③ 受取会費			
賛助会員受取会費	4,689,000	6,972,000	△ 2,283,000
④ 事業収益			
診断診療事業収益	625,713,706	627,923,002	△ 2,209,296
⑤ 受取寄附金			
受取寄附金	15,935,000	16,465,000	△ 530,000
⑥ 雑収益			
受取利息	25,291	27,647	△ 2,356
雑収益	2,203,213	2,242,714	△ 39,501
経常収益計	650,263,589	655,240,835	△ 4,977,246
(2) 経常費用			
① 事業費			
役員報酬	11,040,000	12,240,000	△ 1,200,000
給料手当等	230,980,685	258,243,381	△ 27,262,696
役員退職慰労引当金繰入額	860,000	0	860,000
退職給付費用	6,395,980	8,538,982	△ 2,143,002
福利厚生費	29,488,776	32,214,642	△ 2,725,866
旅費交通費	1,342,145	649,810	692,335
通信運搬費	5,103,828	5,952,745	△ 848,917
医療材料費	36,954,292	37,835,375	△ 881,083
消耗品費	14,402,398	16,140,387	△ 1,737,989
修繕費	22,963,461	20,981,319	1,982,142
図書費	597,346	804,761	△ 207,415
印刷製本費	3,368,592	4,283,418	△ 914,826
光熱水料費	4,069,628	4,358,835	△ 289,207
賃借料	83,436,868	82,920,198	516,670
委託費	94,359,191	81,494,492	12,864,699
リース費	161,400	230,620	△ 69,220
会議費	200,804	61,873	138,931
保険料	472,240	366,800	105,440
支払負担金	724,000	938,400	△ 214,400
支払手数料	1,558,857	1,604,619	△ 45,762
交際費	25,608	28,771	△ 3,163
広告費	124,940	155,940	△ 31,000
減価償却額	41,087,380	50,135,117	△ 9,047,737
租税公課	6,013,730	6,537,608	△ 523,878
雑費	1,033,920	299,696	734,224

科 目	当年度	前年度	増 減
② 管理費			
役 員 報 酬	23,760,000	26,160,000	△ 2,400,000
給 料 手 当 等	16,249,306	14,607,727	1,641,579
役 員 退 職 慰 労 金 繰 入 額	1,740,100	0	1,740,100
退 職 給 付 費 用	182,600	2,533,900	△ 2,351,300
福 利 厚 生 費	5,267,993	5,388,263	△ 120,270
旅 費 交 通 費	9,112	22,805	△ 13,693
通 信 運 搬 費	8,896	19,890	△ 10,994
消 耗 品 費	192,601	53,100	139,501
修 繕 費	0	60,000	△ 60,000
印 刷 製 本 費	52,200	52,200	0
光 熱 水 料 費	154,582	189,151	△ 34,569
賃 借 料	1,995,000	1,995,000	0
委 託 費	1,614,118	144,000	1,470,118
会 議 費	258,405	445,624	△ 187,219
保 險 料	1,328,161	1,328,161	0
支 払 負 担 金	96,667	102,000	△ 5,333
支 払 寄 附 金	55,000	50,000	5,000
支 払 手 数 料	0	438	△ 438
交 際 費	30,000	50,000	△ 20,000
減 価 償 却 費	448,163	395,382	52,781
顧 問 料	1,665,556	1,665,556	0
租 税 公 課	2,000	1,200	800
雑 費	16,000	800	15,200
經常費用計	651,892,529	682,282,986	△ 30,390,457
評価損益等調整前当期經常増減額	△ 1,628,940	△ 27,042,151	25,413,211
特 定 資 産 評 価 損 益 等	△ 132,425	22,931	△ 155,356
評 価 損 益 等 計	△ 132,425	22,931	△ 155,356
当 期 經 常 増 減 額	△ 1,761,365	△ 27,019,220	25,257,855
2. 經常外増減の部			
(1) 經常外収益			
① 固定資産売却益	980,000	0	980,000
經常外収益計	980,000	0	980,000
(2) 經常外費用			
① 固定資産除却額			
研 究 機 器 除 却 額	0	5	△ 5
什 器 備 品 除 却 額	1	195,000	△ 194,999
經常外費用計	1	195,005	△ 195,004
当期經常外増減額	979,999	△ 195,005	1,175,004
当期一般正味財産増減額	△ 781,366	△ 27,214,225	26,432,859
一般正味財産期首残高	489,005,129	516,219,354	△ 27,214,225
一般正味財産期末残高	488,223,763	489,005,129	△ 781,366
II 指定正味財産増減の部			
(1) 一般正味財産への振替額	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	488,223,763	489,005,129	△ 781,366

C 財務諸表に対する注記

1 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- | | | |
|----------|---|------------------|
| 満期保有有価証券 | … | 取得原価法 |
| その他有価証券 | … | 期末日の市場価格等に基づく時価法 |

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

- | | | |
|--------------|---|----------------|
| 薬品、診療材料及び貯蔵品 | … | 最終仕入原価法による低価基準 |
|--------------|---|----------------|

(3) 固定資産の減価償却の方法

法人税法の規定に基づく定額法による。

(4) 引当金の計上基準

- | | | |
|-----------|---|--|
| ① 賞与引当金 | … | 財団職員の賞与に充てるため、将来の支給見込金額のうち当期の負担額を計上している。 |
| ② 退職給付引当金 | … | 財団役職員の自己都合退職による退職金要支給額を計上している。 |

(5) リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンスリース取引で、リース開始日が会計基準適用前のものについては、改正前会計基準である通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を適用している。

(6) 消費税等の会計処理 税抜方式

2 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高 (単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	601,377	228,898	0	830,275
投資有価証券	199,398,623	0	228,898	199,169,725
小 計	200,000,000	228,898	228,898	200,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	47,031,012	61,170,445	56,967,165	51,234,292
減価償却引当資産	83,000,000	132,425	132,425	83,000,000
小 計	130,031,012	61,302,870	57,099,590	134,234,292
合 計	330,031,012	61,531,768	57,328,488	334,234,292

3 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応する額)
基本財産				
普通預金	830,275	0	830,275	—
投資有価証券	199,169,725	0	199,169,725	—
小 計	200,000,000	0	200,000,000	
特定資産				
退職給付引当資産	51,234,292	—	—	51,234,292
減価償却引当資産	83,000,000	0	83,000,000	—
小 計	134,234,292	0	83,000,000	51,234,292
合 計	334,234,292	0	283,000,000	51,234,292

4 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
造 作 設 備	95,399,040	71,624,843	23,774,197
什 器 備 品	65,642,834	32,586,846	33,055,988
研 究 機 器	376,829,334	289,904,474	86,924,860
ソ フ ト ウ ェ ア	2,952,300	1,846,641	1,105,659
合 計	540,823,508	395,962,804	144,860,704

5 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時価 (円換算)	評価損益
丸 紅 株 式 会 社 社 債	50,135,489	50,280,600	145,111
ソフトバンク株式会社社債	40,935,990	40,893,400	△ 42,590
三菱UFJ信託銀行株式会社社債	31,104,485	31,761,000	656,515
株式会社三井住友銀行社債	30,000,000	30,123,000	123,000
ソフトバンク株式会社社債	21,993,761	22,008,800	15,039
株式会社三井住友銀行社債	20,000,000	20,234,340	234,340
東 京 都 公 募 公 債	25,000,000	25,006,325	6,325
株式会社三井住友フィナンシャルグループ	10,000,000	10,043,000	43,000
合 計	229,169,725	230,350,465	1,180,740

6 引当金の増減額及びその残高

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
賞 与 引 当 金	12,550,906	37,717,434	37,863,967	0	12,404,373
役員退職慰労引当金	0	21,797,800	0	0	21,797,800
退職給付引当金	47,031,012	9,178,680	26,773,200	0	29,436,492
合 計	59,581,918	68,693,914	64,637,167	0	63,638,665

D 財 産 目 録

平成 28 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額			
(流動資産)	現金預金					
	現金	手元保管	運転資金として 550,220			
	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	〃	18,808,374		
		三井住友銀行東京中央支店	〃	29,594,651		
		東京都民銀行茅場町支店	〃	33,527,141		
		みずほ銀行丸の内中央支店	〃	31,343,880		
		ゆうちょ銀行	〃	108,706		
		三菱東京UFJ銀行八重洲通支店	〃	3,596,743		
		三井住友信託銀行本店営業部	〃	3,218,288		
		三井住友信託銀行本店営業部	〃	20,000,000		
	定期預金		<現金預金計> 140,748,003			
	医業未収入金	社会保険報酬支払基金	公益目的事業の収入である。	11,582,497		
		協会けんぽ	〃	8,143,112		
		伊藤忠健康保険組合	〃	7,798,788		
		東京証券業健康保険組合	〃	6,430,784		
		東京都国民健康保険団体連合会	〃	6,182,465		
		上記他87件	〃	27,860,859		
				<医業未収入金計> 67,998,505		
	薬品	X線撮影用造影剤他		712,355		
	診療材料	X線フィルムほか		83,390		
貯蔵品	印刷物ほか		679,440			
前払費用	日経プラザアンドサービス	H28.4分賃借料 役職員の6か月分通勤費である。(H28.4～ H28.9)	6,631,323			
	通勤手当		3,351,510			
	タカハシビル	H28.4分賃借料	718,200			
		<前払費用計>	10,701,033			
流動資産合計			220,922,726			
(固定資産)	基本財産	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	運用益を公益目的事業に使用している。	830,275	
		投資有価証券	丸紅社債	〃	50,135,489	
			ソフトバンク社債	〃	40,935,990	
			三菱UFJ信託銀行社債	〃	31,104,485	
			三井住友銀行社債	〃	30,000,000	
			東京都公募債	〃	25,000,000	
			ソフトバンク社債	〃	21,993,761	
					<基本財産計>	200,000,000
	特定資産	退職給付引当資産	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	退職給付引当金見合の引当資産として管理 している。	35,935,292
			三井住友フィナンシャルグループ社債	〃	10,000,000	
			トヨタ自動車株式	〃	5,299,000	
		減価償却引当資産	普通預金	三井住友銀行東京中央支店	公益目的事業用資産の取得資金	53,000,000
			三井住友銀行社債	〃	20,000,000	
			野村証券ファンドラップ	〃	9,890,506	
	三井住友銀行東京中央支店	〃	109,494			
			<特定資産計>	134,234,292		
	その他固定資産	敷金	株式会社日本経済新聞社	日経茅場町ビル敷金	18,383,640	
		入居保証金	タカハシビル	タカハシビル入居保証金	4,080,000	
		造作設備	2F X線室改装工事		公益目的保有財産	6,800,000
			3F 診察室改装工事		〃	4,978,000
4F ドック改装工事				〃	3,795,908	
C T室改修工事				〃	3,162,218	
3階・4階改修工事				〃	1,396,289	
3階内視鏡洗浄室設置工事				〃	547,917	
その他造作設備		〃	3,093,865			

什器備品	検診システム	〃	17,261,854
	電子カルテ	〃	9,994,400
研究機器	複合機5台	〃	1,612,953
	医療系LANケーブル工事	〃	1,279,334
研究機器	本館医局LANケーブル配線工事	〃	899,167
	本館医局電話主装置	〃	334,449
研究機器	郵便料金計器	〃	204,000
	薬用冷蔵ショーケース	〃	146,695
研究機器	リム型薬用冷凍冷蔵庫	〃	121,271
	その他什器備品	〃	1,201,865
研究機器	マルチスライスCT	〃	28,420,000
	電子内視鏡及び各種内視鏡機器	〃	23,339,129
研究機器	X線テレビ装置（胃部）4台	〃	22,557,005
	超音波診断装置	〃	2,601,602
研究機器	婦人科超音波診断装置	〃	2,423,250
	全自動血球計数器	〃	1,495,800
研究機器	婦人科診察台	〃	1,065,360
	内臓脂肪測定装置	〃	942,880
研究機器	非接触眼圧計	〃	731,600
	画像サーバーNAS	〃	502,572
研究機器	医用テレメーター式	〃	608,684
	炭酸ガス送気装置	〃	369,750
研究機器	ベッドサイドモニタ	〃	334,137
	心電計	〃	278,600
研究機器	無散瞳眼底カメラ	〃	207,801
	自動身長計付体重計	〃	210,000
研究機器	送信機	〃	182,506
	テーブルトップ遠心機	〃	72,917
研究機器	オージオメータ	〃	53,014
	その他	〃	528,253
電話加入権	3668-6803他	〃	1,798,182
ソフトウェア	会計ソフト他	法人会計保有財産	846,084
	CD書込みオプションセット	公益目的保有財産	121,334
一括償却資産	その他	〃	138,241
	平成26年度分	〃	188,470
	平成27年度分	〃	129,334
		<その他固定資産計>	169,440,330
固定資産合計			503,674,622
資産合計			724,597,348

(流動負債)	買掛金	メディセオ	公益目的事業の費用である。	6,123,820	
		富士フイルムメディカル	〃	1,794,506	
		オシロイメディカル株式会社	〃	1,687,640	
		東邦薬品	〃	1,600,922	
		アルフレッサ	〃	225,996	
		メディエントランス	〃	37,929	
		村角工業	〃	21,600	
		サンメディックス	〃	16,524	
		<買掛金計>			11,508,937
		未払費用	締後給料	H28.3月分	19,150,304
	社会保険料		〃	2,114,469	
	郵便料金		〃	167,163	
	<未払費用計>			21,431,936	
	未払金	L S I メディエンス	公益目的事業の費用である。	5,199,372	
		アデコ	〃	2,167,400	
エーゼット		〃	1,219,860		
サン・ウォッシング		〃	1,095,736		
東芝メディカルシステムズ		〃	1,037,880		
エス・エス・エー		〃	631,260		
リース残債務に関わる消費税等		〃	1,990,392		
上記他21件		〃	3,276,213		
<未払金計>			16,618,113		
リース債務		医療機器	公益目的事業の費用である。	25,012,000	
	什器備品	〃	5,747,484		
	<リース債務計>			30,759,484	
預り金	源泉所得税	H28.3月分	873,542		
	市町村民税	〃	769,400		
	職員負担分社会保険料	〃	37,332		
<預り金計>			1,680,274		
賞与引当金	職員	職員の賞与の引当金である。	12,404,373		
未払消費税	H27年度分		5,888,900		
流動負債合計				100,292,017	
(固定負債)	役員退職慰労引当金		役員退職慰労金の引当金である。	21,797,800	
	退職給付引当金		職員の退職金の引当金である。	29,436,492	
	長期未払金	リース残債務に関わる消費税等		5,413,359	
	リース債務	医療機器	公益目的事業の費用である。	55,994,450	
		什器備品	〃	23,439,467	
<リース債務計>			79,433,917		
固定負債合計				136,081,568	
負債合計				236,373,585	
正味財産				488,223,763	

平成 28 年 6 月 16 日

公益財団法人 早期胃癌検診協会 事務局

〒103-0025

東京都中央区日本橋茅場町 2 丁目 6 番 12 号

Tel. 03-3668-6803

Fax. 03-3639-5404

URL <http://www.soiken.or.jp/>

E-mail mail@soiken.or.jp